

新美南吉と詩

Nankichi × Step

南吉の詩は童話に勝るとも劣らず魅力的。
地元を中心に活躍する現代の若手作家たちと詩をコラボレーションしていきます。



窓

窓をあければ

風がくる、風がくる。

光つた風がふいてくる。

窓をあければ

こゑがくる、こゑがくる。

遠い子どものこゑがくる。

窓をあければ

空がくる、空がくる。

こはくのやうな空がくる。

レトロガリーイラストレーター
岩田有希子

レトロでガリーなイラストで展覧会やイベントに参加。グラフィックデザインからカットイラスト、マグカップなどをつくって活動しています。http://lien02.com/

絵について

南吉さんの「窓」を読んでイメージが浮かんだ情景は爽やかで心地よい風が吹く、ちょっとセンチメンタルな町並み、暖かな光と懐かしさをイメージして描きました。

新美南吉



にいみなんきち
(1913-1943)

大正2年7月30日、愛知県知多郡半田町(現・半田市)に生まれる。幼くして母を亡くし、養子に出されるなど寂しい子ども時代を送る。旧制半田中学校卒業後、「赤い鳥」入選を契機に北原白秋や巽聖歌の知遇を得る。昭和18年、結核のため29才で世を去る。

解説

実に爽やかな作品である。季節は春から初夏にむかう時期なのであろう。三連からなるこの詩は、各連とも「窓をあければ、風がくる、こゑがくる、空がくる、」というように、「・・・くる」と繰り返される言葉のリズムを受けて、「光つた風」も「遠い子どものこゑ」も「こはくのような空も、また」「・・・くる」という1つの言葉でうけとめられている。それぞれ異質の情景を同じ「くる」という言葉で受けることによって生ずる微妙な違和感が、乾いた爽やかさとともにこの作品

をシャレたものになっている、といっていだらう。南吉童謡「窓」は、昭和6年復刊された「赤い鳥」5月号に南吉の作品として初めて掲載されたものである。

前新美南吉記念館館長

矢口 栄 さん

解説者

半田市、知多市、東浦町の小中学校勤務を経て'04年から'11年まで新美南吉記念館館長を務める。著書「南吉の詩が語る世界」(一粒社出版部)「子どもたちに贈りたい詩」(教育出版センター)「新しい詩の創作指導」(共著・明治図書)ほか。

おしらせ

童話の里探検プログラム 「新美南吉の世界を体験しよう!!」

【日時】4/20、10:00~16:00

【場所】岩滑コミュニティセンター

【定員】100名(先着順)【参加費無料】

※参加申込み期間3/18~4/14、申込み問合せは社団法人半田青年会議所0569-21-7105まで。
新美南吉ゆかりのスポット体験、クイズ・パズル作成、童話の読み聞かせ。

私の新美南吉展

【期間】4/27~6/30【場所】新美南吉記念館
恵比寿にあるギャラリーマールとのタイアップ企画。大物絵本作家~新鋭の若手作家まで参加して行われる。